様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ５ 月 ２５ 日現在

機関番号：１２６０３
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2013～2015
課題番号：２５７７０２７０

研究課題名（和文）「動物愛護の先進国」再考－近代イギリスにおける動物福祉の制度と理念

研究課題名（英文）Animal welfare in modern British history

研究代表者
伊東　剛史（Ito, Takashi）

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・講師

研究者番号：１０６１１０８０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：欧米諸国の中でイギリスは、いち早く動物福祉を整備した国であると考えられてきた。本研究はこの「動物福祉の先進国」としてのイギリス国家像を再検討することだった。具体的には、動物を資源として活用する社会基盤が整備される一方、人道主義ネットワークに基づく動物保護運動が隆盛したことを考察した。そして、動物の処遇に関する法制度の展開を検証し、国家、市場、チャリティの間の複合的な関係のもとで、動物福祉の理念と制度が構築されたダイナミックな歴史的過程を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This research project revisited the rise of animal welfare movements in nineteenth-century Britain, exploring how the idea of protecting animals from unjustified cruelty became embedded into a variety of social practicies and institutions. It has demonstrated that, while animals came to be exploited for research purposes as well as for economic activities, an increasing number of people became aware of animal cruelty, contemplating the ideal relationships between human and nonhuman animals. Debate over the ethics of animal use often polarized the public at large, especially in face of anti-vivisectionism in the 1870-80s, but by the beginning of the twentieth century, animal welfare entered the mainstream of social concerns and political agendas.

研究分野：イギリス近代史

キーワード：国際情報交換　イギリス　文化史　社会史　都市史　動物福祉　動物倫理　動物観

１．研究開始当初の背景

近年、地球規模の環境問題と動物関連問題に対する関心の高まりを受け、人間と動物の関係の歴史を、学術的に考察する試みが始まっている。「人間と動物の関係史」と呼ばれるこの試みは、人類史の多様な時空間の中で展開する両者の関係を、個々の歴史的文脈に再定位しつつ、総合的な視座を構築することを目指している。

報告者は、こうした研究動向を早くから摂取するだけでなく、「人間と動物の関係史」の学術的基盤を構築することに寄与してきた。具体的には、日本学術振興会特別研究員SPD（H19～21 年度）として、都市における動物関連問題に焦点をあて、これらの問題がヴィクトリア期の動物観と都市空間の構造に与えた影響を解明してきた。その後、科研費研究課題「近代イギリスにおける動物倫理の政治学」（研究活動スタート支援・H23～24 年度）により、動物観の変容が動物保護政策に反映される過程を分析してきた。

２．研究の目的

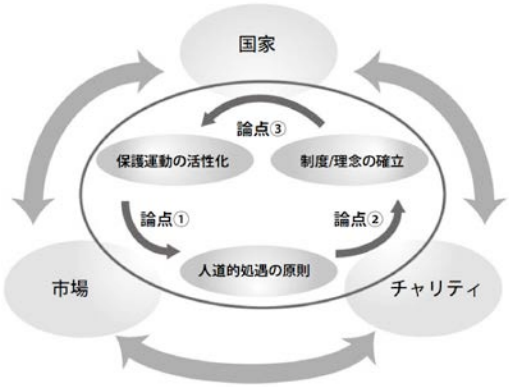
本研究は、19 世紀から 20 世紀初頭のイギリスにおける動物福祉の展開を解明する。具体的には、動物を資源として活用する社会基盤が整備される一方、人道主義ネットワークに基づく動物保護運動が隆盛したことに着目する。そして、動物の処遇に関する法制度の展開を検証し、国家、市場、チャリティの間の複合的な関係のもとで、動物福祉の理念と制度が構築されたことを明らかにする。これにより、近代イギリスにおける「人間と動物の関係史」を俯瞰する視座を築く。

動物倫理が社会の広範囲に影響を及ぼすには、それが重要だという認識の共有、その問題を継続的に議論する公共空間、そして、そこでの議論を実際の社会政策へ反映させる制度を必要とした。さらに、そうした制度の構築には、「動物愛護の先進国」という国家表象の生成を伴った。こうした一連の歴史的ダイナミズムを、とくに早くから動物福祉の諸制度を整えたイギリスを参照軸として検証することは、複合的な西洋近代史像を構築する礎となるだけでなく、現在、我々を取り巻く動物福祉問題や環境問題の諸相を考察するうえでも、有用な視座を提供することになると考える。

３．研究の方法

本研究の目標は、19～20 世紀イギリスの動物福祉の展開が、西洋近現代における「人間と動物の関係史」の重要な比較軸を提供すると想定し、その全体像を明らかにすることである。これを達成するために、研究全体を構成する３つの論点を設ける。こうして個々の研究課題を明示することにより、効率的に研究を遂行するだけでなく、総合的な理解の枠組みを提示する。その３つの論点とは、①人道主義ネットワークの構築、②功利主義的原則の導入、③動物福祉の構造化である（概念図参照）

また、比較史の枠組みを構築するために、国際的な人的ネットワークを積極的に活用する。これまでに築いてきた海外研究者との交流を発展させ、動物・自然・環境をテーマとする比較史や関係史の発展に寄与する。



<u>概念図：動物福祉の循環構造</u>
動物保護運動の隆盛を受けて、人道的処遇の原則が導入された。この原則によって、動物の資源化が認められる一方、動物福祉の制度/理念が構築された。さらに、動物の使用に関する監視が強化され、動物保護運動の新たな展開が促された。

４．研究成果

初年度は、19 世紀前半から中期までのイギリスにおける動物福祉の諸問題に関する文献の収集と分析を行った。それにより動物虐待防止法の制定過程について、ロンドンの都市行政との関連で新しい発見があった。それは、動物虐待防止法と、治安維持や公衆衛生などの都市ガヴァナンスとの問題が密接に関わり、これにより公権力の動物問題への介入が正当化されたという発見である。これを翌年の国際都市史学会（於リスボン）で発表した。

また派生的な研究成果として、高林陽展氏（清泉女子大学）と以下の研究報告を行った。⑴「自然誌・医学・帝国統治――19 世紀後半イギリスに於けるコブラ毒の議論をめぐって」（日本西洋史学会）、⑵「ヴィクトリア時代に於ける自然誌と医学----コブラ毒の議論をめぐって」（専修大学人文学研究所定例研究会）。

年度末に、これまでの研究成果をまとめた単著 *London Zoo and the Victorians* をイギリス王立歴史学協会監修の歴史研究叢書から出版した。

２年度目は、19 世紀半ば以降の文献の収集と分析を中心に研究を進めた。その過程で、進化論者ダーウィンが当時の人々の動物観に与えた影響を再検討する必要があることがわかり、ダーウィンの著作、書簡、研究ノートを精査した。また、ダーウィンも関与した動物生体解剖論争に関する分析を進めた。これらの研究をとおして、19 世紀イギリスにおける動物福祉の法制度と社会的な動物認識との相互関連性を具体的に解明する糸口を得た。さらに、これらの成果を学会等で報告する準備を進めた。

プロジェクト最終年度にあたる 3 年目は、これまでの研究成果をまとめ学会・研究会報告などを通じてフィードバックを得ることが中心になった。また、そのための補完的な資料調査を行った。具体的には、近世イギリス史研究会、イギリス女性史研究会のシンポジウムで口頭報告を行い、今後活字論文として発表するための貴重な助言を得ることができた。2016 年度に共編著『痛みの文化史――イギリス史のなかの苦痛と共感』を出版予定である。今後、同論集の英語での出版企画を進めていく予定もある。

比較史の観点からの研究成果としては、動物の収集、繁殖に関する 19～20 世紀初頭のグローバル・ネットワークを分析した「帝国・科学・アソシエーション――「動物学帝国」という空間」（近藤和彦編『ヨーロッパ史講義』所収）を発表することができた。

５．主な発表論文等
（研究代表者には下線）

〔雑誌論文〕（計 4 件）

①Takashi Ito, ‘The state and the popularisation of science in Victorian Britain: The Scientific and Literary Societies Act of 1843’, *Historia Scientiarum* 25 (2016) 216-25 査読有

②伊東剛史「近代科学の「周縁」―― 19 世紀イギリスにおけるジェントルマン科学と気候順化」『専修大学人文科学研究所月報』275 (2015) 17-37 査読無

③伊東剛史「ロンドン動物園と科学知の演劇性」『科学史研究』272 (2015) 59-64 査読無

④伊東剛史「19 世紀ヨーロッパのポピュラー・サイエンス」『科学史研究』272 (2015) 53-54 査読無

〔学会発表〕（計 10 件）

①Takashi Ito, ‘Weeping elephants, Charles Darwin and the vivisection controversy: a cultural history of "embodied pain" in Victorian Britain’, ICC-TUFS joint seminar on 'Europe seen from abroad', International Cultural Centre, Krakow, 4 Feb 2016

②伊東剛史「眠れぬ夜の苦しみ――ダーウィンと生体解剖論争」第 25 回イギリス女性史研究会・シンポジウム「女性と動物――動物の苦痛への共感から反生体解剖運動へ」（甲南大学・ネットワークキャンパス東京）2015 年 12 月 12 日

③伊東剛史「ゾウの涙――ダーウィンの感情研究と生体解剖論争」近世イギリス史研究会・シンポジウム「近代イギリスにおける痛み――信仰・感性・観察」（東洋大学）2015 年 6 月 28 日

④伊東剛史「擬人化と馴致――ヴィクトリア期ロンドン動物園の《domesticity》」歴史学研究会近代史部会例会（早稲田大学）2015 年 4 月 4 日

⑤Takashi Ito, ‘Still a reluctant patron?: state and science popularisation in Victorian Britain, International Symposium on 'Popularising science in the East and West', University of Tokyo, 27 Mar. 2015

⑥伊東剛史「19 世紀ロンドン動物園にみる科学の制度化と大衆化」名古屋近代イギリス研究会（名古屋市立大学）2014 年 9 月 27 日

⑦Takashi Ito, ‘Cruelty in Smithfield: meat trade and animal law in nineteenth-century London’, 12th International Conference on Urban History, Prague, 3-6 Sept. 2015

⑧伊東剛史「ロンドン動物園と科学知の演劇性――1836 年のキリン・センセーションー」日本科学史学会年会（酪農学園大学）2014 年 5 月 30 日

⑨Takashi Ito, ‘Science for gentlemanly breeders?: British acclimatisation revisited’, International Society for the History, Philosophy and Social Studies of Biology, Montpellier, 10 July 2013

⑩伊東剛史・高林陽展「自然誌・医学・帝国統治――19 世紀後半イギリスにおけるコブラ毒の議論をめぐって」日本西洋史学会大会（京都大学）2013 年 5 月 12 日

〔図書〕（計４件）

①【単著】Takashi Ito, *London Zoo and the Victorians, 1828-1859,* Royal Historical Society Studies in History New Series (Woodbridge: Boydell and Brewer, 2014)

②【共著】近藤和彦編『ヨーロッパ史講義』（山川出版社、2015 年）第８章担当：伊東剛史「第８章「帝国・科学・アソシエーション――「動物学帝国」という空間」

③【分担執筆】南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵（責任編集）『新しく学ぶ西洋の歴史:アジアから考える』（ミネルヴァ書房、2016 年）コラム 12 担当：伊東剛史「自然と人間」

④【分担執筆】GWEC Editorial Working Committee (ed.), *A general world environmental Chronology* (Tokyo, 2014), Masako Suzuki and Takashi Ito, 'United Kingdom', pp. 565-572

〔その他〕
ホームページ等
http://researchmap.jp/tkito/

６．研究組織
(1)研究代表者
伊東 剛史（Takashi ITO）
東京外国語大学
大学院総合国際学研究院・講師
研究者番号：10611080